

Title	絵本の「読み聞かせ」から「読みあい活動」へ実施結果：アンケート集計結果の概要（総合研究所 News 聖学院大学総合研究所主催【子どもの人格形成と絵本】研究プロジェクト子どもの育ちと絵本研究シンポジウム）
Author(s)	聖学院大学総合研究所
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.24No.2, 2015.1 :39-40
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/repos/modules/xoonips/detail.php?item_id=5253
Rights	



聖学院学術情報発信システム：SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

聖学院大学総合研究所主催
【子どもの人格形成と絵本】研究プロジェクト
子どもの育ちと絵本研究シンポジウム
絵本の「読み聞かせ」から
「読みあい活動」へ
実施結果—アンケート集計結果の概要

絵本の読み手は、子どもに絵本の世界をどのように伝えているのだろうか？この謎に答える足がかりとして、読み手の読みに注目しました。光トポグラフィを用いて熟達した読み手の脳活動の様子と、読み手へのインタビューなどから、子どもに伝えるための読みの世界を紐解きます。この研究は、本学総合研究所がプロジェクト研究として行っているものです。

日 時：11月29日（土） 13：30～15：30

場 所：聖学院大学エルピスホール

【プログラム】

開会の挨拶

司会・話題提供

石川由美子（聖学院大学、研究統括責任者）

話題提供

齋藤 有（ルーテル学院大学、研究協力者）

水谷 勉（自治医科大学、研究協力者）

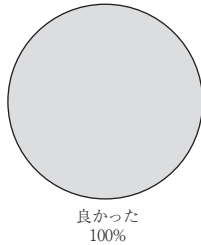
実験利用オノマトペ絵本実演

「ころころころ」作・絵 元永 定正, 福音館書店
宇奈月やつ子（熟達者実験協力者）

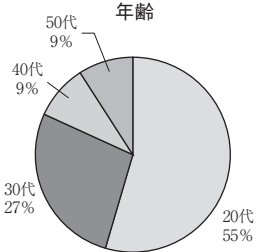
【結果の概要】

- ・参加者は37名。内、アンケート回答者は11名。
- ・回答者のプロフィールとして、年齢は20代が最も多く、55%。男女比は女性が73%。
- ・シンポジウムについては、100%が「良かった」という意見で、大変高い評価を得た。
- ・自由意見は、「色々な人が興味を持てる内容で良かった」「勉強になった」など。

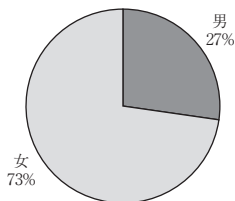
シンポジウムについて



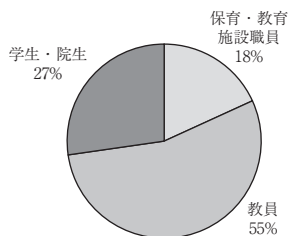
年齢



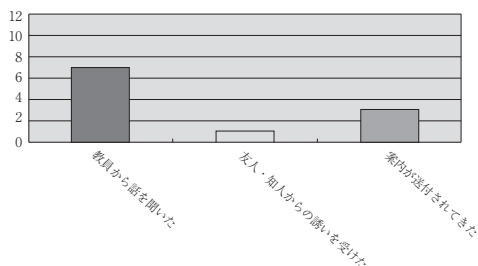
性別



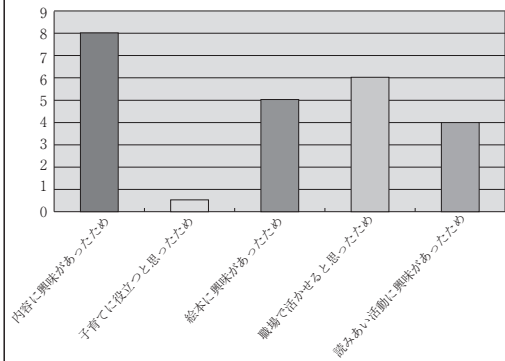
職業



本日のシンポジウムをどこで知ったか



参加の動機



自由意見

- ・読み聞かせをするとき、どのように読み、表現し、子どもに伝えていくか、改めて考える機会になりました。また、言葉が出ていない子ども達へオノマトペ絵本をもっと読んであげようと思いました。脳血流の話はとても新鮮でした。とても勉強になりました。オノマトペという言葉は何度も耳にしていたましたが、こんなに奥深いものなんだと知ることが出来ました。
- ・ワークショップは小さな子どもから大人まで一緒に楽しめる活動ができて良かったです。役割、見立て（小道具など）、イメージを共有できるものがたくさんあって、やはり一緒に体を動かすことで絵本の世界を共有（味わう）出来ることを体験的に学びました。
- ・色々な立場の人が興味を持って関われる内容で良かったと思います。個人的には ToM 研究で言われてきたような他者理解とは異なる、より基盤となるような“共感”の育ちのヒントが感性ことばのやり取りの中にあるのかなとおもしろかったです。
- ・絵本に関することを勉強しました。良かったと思います。絵本のよみあい活動と子どもの育ちには深く関係があることを知りました。